

ケルヲ皆飲タリケリ、近來ノ別當不然歟、

〔太平記二十九〕松岡城周章事

廐侍ニハ赤松信濃守範資上座シテ、一族若黨三十二人、膝ヲ屈シテ並居タリケルガ、イザヤ最後ノ酒盛シテ、自害ノ思ヒザシセントテ、大ナル酒樽ニ酒ヲ灌へ、銚子ニ盃取副テ、家城源十郎師政酌ヲトル、

〔幕朝故事談〕諸侯

帝鑑の間大名へ、元日の御酒被下は、御餘りの酒を丁子に入れて、御餘頂戴被仰下候筋故、酒を受けて而後戴く事なり、

〔月宵鄙物語二〕千隈河のさ、れ石

女は圍爐裏に物くべて湯涌すかと思れば、やがて銚子に酒あた、め、鮎石臥など取添て持出て、略下

銚子直

〔西宮記臨時十一〕成勸文事

可著鈇左右獄囚賊物事略中

清原延平山城國人 強盜 賊物二種略中 銀銚子一口直二貫二百文

長徳二年十二月十七日

銚子雜載

〔三代實錄八〕貞觀六年正月十四日辛丑、延曆寺座主傳燈大法師位圓仁卒、四年開成、我

使聘禮既畢、還向本朝、圓仁相隨上船、中弟子惟正、惟曉、俱留住沙石之上、海賊十餘人、忽然出來、顔

色非常、意在要物、圓仁與惟正等俱語云、我死只在茲、不如捨物、專任彼賊、即捨隨身物、著身衣服、皆悉

與之、最後授銚子、賊即云、和尚若捨銚子、客中無此器、辛苦無極矣、賊乃發慈心、略下

〔都氏文集三〕銚子廻文銘